

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュ マンスリー

(2020年3月号)

No.32

2020/02/28

りそなホールディングス 市場企画部



◆ 今月の相場見通し (サマリー)

※各マーケットコメントは2月28日(金)9:00現在
※休日の実績は前営業日

◆ 今月の注目ポイント

		2月27日現在 (矢印は1月末比)	3月の予想	
為替相場	ドル・円 (円)	↗ 109.59	横ばい →	107.00 ~ 112.00
	ユーロ・円 (円)	↗ 120.56	下落 ↘	117.00 ~ 123.00
株式相場	日経平均 (円)	↘ 21,948	上昇 ↗	20,500 ~ 23,000
	NYダウ (ドル)	↘ 25,767	上昇 ↗	25,000 ~ 27,500
長期金利	日本 (%)	↘ -0.110	上昇 ↗	-0.20 ~ -0.05
	米国 (%)	↘ 1.26	上昇 ↗	1.15 ~ 1.50

新型コロナウイルスの実体経済への影響を見極め

テーマ	注目度	今月の注目ポイント
景気動向	◎	【景気】新型肺炎の実体経済への影響を注視。 2月発表のISM製造業景況指数は市場予想を上回り、節目の50も上回ったが、3月発表の同指標で新型肺炎への懸念がどの程度現れるかが注目される。中国の経済指標は春節の影響で1・2月の合計が公表されるため基調がわかりづらいが、新型肺炎の影響がどの程度見られるのかに注目が集まる。影響が長引けば、世界経済への悪影響も懸念される。
金融政策	○	【FRB】金融政策は当面現状維持の見通し。 3/17-18のFOMCでは現状の金融政策の維持が見込まれるが、新型肺炎の影響が思ったより世界経済の下押し要因となる可能性が示唆されれば、市場の金融緩和期待も高まることから、FED高官の発言には注目。
政治	◎	【米国大統領選挙】3/3は複数の州で予備選が集中するスーパーチューズデー。 民主党候補の大勢が見える可能性もあり、注目が集まる。通常6月に予備選を行う全米最大の人口(割当選挙人416人)を有するカリフォルニア州もこの日に予備選を前倒ししており、インパクトは大きい。中道候補では、初戦及び第2戦でも躍進したブティジェッジ氏や、有力候補とされていたバイデン氏の支持率低下の傍らで、足元急速に支持率を伸ばしているブルームバーグ氏の動向が注目される。リベラル派のサンダース氏が大きく躍進すれば、マーケットにはネガティブ要因。 【新型肺炎リスク】 1月下旬から感染が拡大中の新型肺炎。中国での感染拡大はピークアウトを迎えつつあるものの、韓国や日本等のアジア近隣国に留まらず、全世界的に感染が広がつつある状況。3月下旬から4月上旬でのピークアウトを想定するものの、経済活動の制限が長引く程実体経済への悪影響が深刻化しやすく、慎重に動向を注目のしたい。

今月の見通し

為替	【ドル円】ドル円は横ばい。 新型肺炎の感染が世界各地で見られ始めており、ドル円は上値の重い展開を予想。一方で、感染者数がクルーズ船も込みで世界3番目に多い日本の動向も注目され、一時的にリスクオフの円売りとなる可能性も。 【ユーロ】ユーロドルは下落、ユーロ円は下落。 新型肺炎の感染が世界中に拡大しつつある中、ユーロ圏の指標は未だ新型肺炎の影響を織り込んではおらず、今後不透明感が一段と高まった場合には、ドル高・円高でユーロの下落圧力。
株式	【日本株】日本株は上昇。 新型肺炎の感染拡大への警戒感を引き続きあるものの、先月末に日本株は大きく下落したことから、買い戻しも入りやすいと予想する。但し、地理的に中国と近く、感染者数も多い日本は引き続き上値が重くなりやすい。混乱が長引けば日本経済への悪影響が意識され、下値を探る展開も。 【米国株】米国株は上昇。 新型肺炎への警戒感から上値は重いとも見られるが、先月末に大きく売られていることから買い戻しが優勢となると予想。潜伏期間も考慮し、今後1~2週間程度で米国内での感染拡大が限定的となれば、相対的に経済が底堅い米株は、安心感から一段と買い戻される可能性も。
長期金利	【円金利】日本国債は金利上昇を予想。 新型肺炎への懸念が続く中でも、現状では日銀が金融緩和を行うとの観測は高まらず。3月末に向けて新型肺炎の感染拡大ペースに目途がつけば、米金利に連れて緩やかに金利上昇を試すとみる。 【米金利】米国債は金利上昇を予想。 米金利は既に年3回の利下げを完全に織り込む水準に低下。3月末にかけて感染拡大の先行きに目途がつけば、足元の急速なリスクオフ相場が一部巻き戻される可能性もあろう。3/18のFOMCに向けた当局高官の発言にも注目が集まる。

◆ 今月の重要日程

2日(月) 米	2月ISM製造業	16日(月) 中	1・2月生産・小売・投資
3日(火) 米	大統領選挙予選(スーパーチューズデー)	17日(火) 米	2月小売売上高
4日(水) 米	2月ISM非製造業	18日(水) 米	FOMC(結果発表)
6日(金) 米	2月雇用統計	19日(木) 日	日銀金融政策決定会合
11日(水) 米	2月CPI	24日(火) 欧	3月PMI
12日(木) 欧	ECB理事会(結果発表)	31日(火) 中	3月PMI

◎注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュ マンスリー (2020年3月号)

2020/02/28

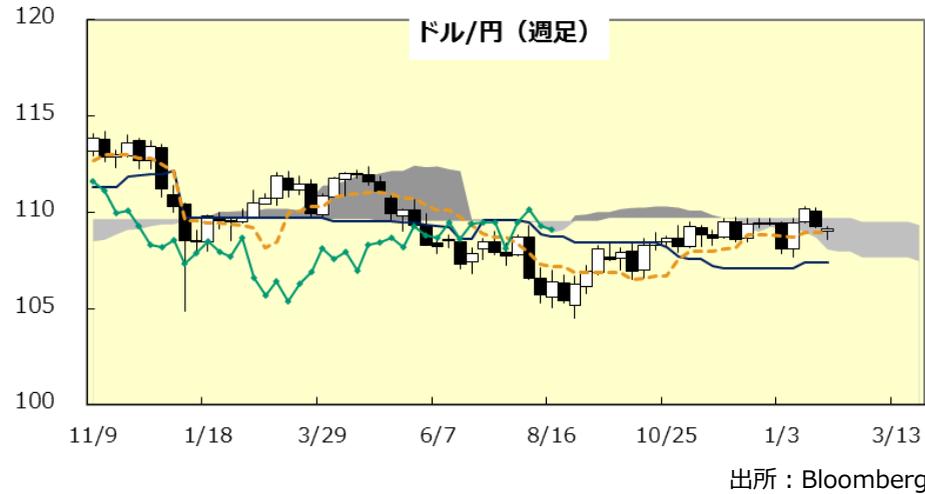
◆ 今月の相場見通し① 為替

ドル 円

米ドル・円

⇒ドル・円は横ばい

107.00 – 112.00円



ドル円は横ばいを予想

新型肺炎の感染は中国国内では感染拡大にピークアウト感が見られつつあるものの、感染例がアジア諸国に留まらず世界各地で見られ始めており、ドル円は上値の重い展開を予想する。

一方で、感染者数がクルーズ船も込みで世界3番目に多い日本の動向及び政府の感染拡大防止策は、今後の夏季オリンピック開催の有無も含め注目される。今後感染者が爆発的に拡大するなどすれば、一時的にリスクオフの円売りとなる可能性も想定される。また、中国国内の感染拡大に一服感は見られるものの、収束後の経済の回復には不透明感も残る中で米国内での感染拡大が限定的となれば、相対的に経済が底堅いドルが選好されやすく、リスクオフの中でも下値は限定的となろう。

ユロ 円

ユーロドル

⇓ユーロドルは下落

1.07 – 1.12ドル

ユーロ円

⇓ユーロ円は下落

117.00 – 122.00円



ユーロドルは下落、ユーロ円は下落を予想

新型肺炎の感染が世界中に拡大しつつあるものの、中国との貿易で関係の深い欧州経済は指標を見る限り未だその影響を織り込んでおらず、今後の感染拡大で不透明感が一段と高まった場合には、ドル高・円高でユーロの下落圧力。

欧州でも一部イタリアでの感染拡大のほか多くの国で感染例がみられ、今後の感染拡大が懸念される。

3月末にかけて新型肺炎懸念の高まりが一服した際には一時的にリスクオフの巻き戻しの動きでユーロが選好される場面もあるだろう。しかし中期的には米景気の底堅さと利下げ観測後退の一方で、欧州経済の回復遅れも意識され、ドル高・ユーロ安圧力がかなりやすいとみる。ユーロドル・ユーロの上値は限定的だろう。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



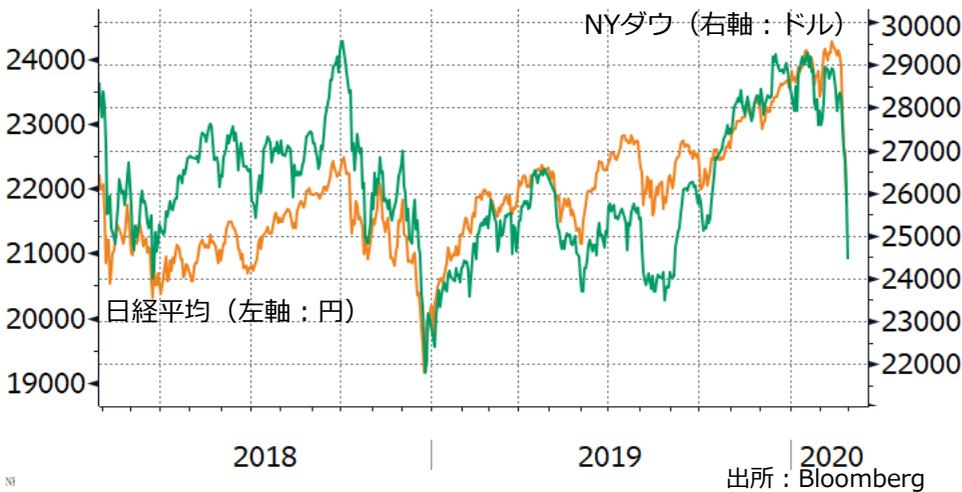
りそな マーケットフラッシュ マンスリー

(2020年3月号)

2020/02/28

◆ 今月の相場見通し② 株式、長期金利

株式見通し



日経平均



日経平均は上昇

20,500 - 23,000円

日本株は上昇

新型肺炎の感染拡大への警戒感は引き続きあるものの、先月末に日本株は大きく下落したことから、買い戻しも入りやすいと予想する。但し、地理的に中国と近く、感染者数も多い日本は引き続き上値が重くなりやすい。混乱が長引けば日本経済への悪影響が意識され、下値を探る展開も。

NYダウ



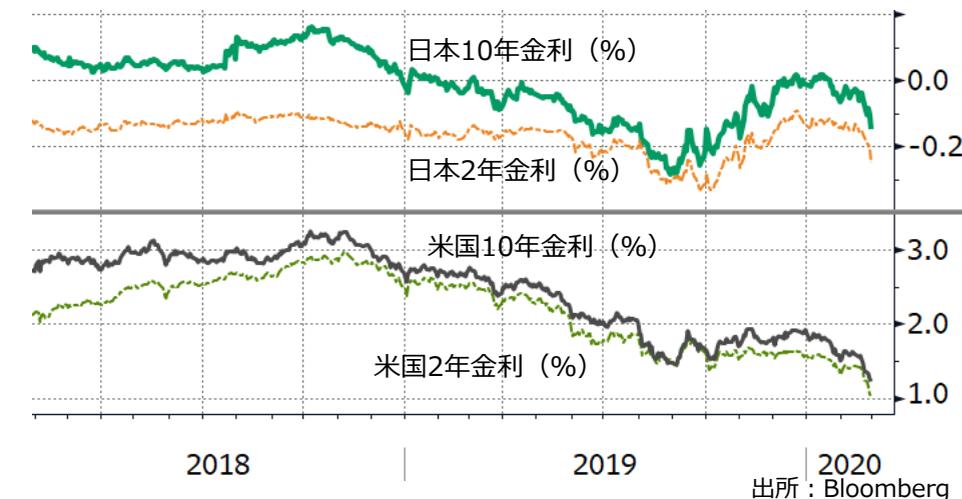
ダウは上昇

25,000 - 27,500ドル

米国株は上昇

新型肺炎への警戒感から上値は重いと見るものの、先月末に大きく売られていることから買い戻しが優勢となると予想。潜伏期間も考慮し、今後1~2週間程度で米国国内での感染拡大が限定的となれば、相対的に経済が底堅い米株は、安心感から一段と買い戻される可能性もあろう。

長期金利見通し



日本国債10年



金利は上昇

▲0.20 - ▲0.05%

日本国債は金利上昇を予想。

新型肺炎への懸念が続く中で、米金利の急低下に連れて国内金利も低下しているものの、現状では日銀が金融緩和を行うとの観測は高まらず、国内金利の低下は限定的となっている。3月末に向けて新型肺炎の感染拡大ペースに目途がつけば、米金利に連れて緩やかに金利上昇を試すとみる。

米国債10年



金利は上昇

1.15 - 1.50%

米国債は金利上昇を予想。

新型肺炎のリスクの米国国内での感染拡大、世界的な経済への悪影響が懸念される中で、米金利は年3回の利下げを完全に織り込む水準に低下。ただし、3月末にかけて感染拡大の先行きに目途がつけば、足元の急速なリスクオフ相場が一部巻き戻される可能性もあろう。3/18のFOMCに向けた当局高官の発言にも注目が集まる。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュ マンスリー

(2020年3月号)

2020/02/28



◆ マーケットカレンダー

日本		米国		その他	
3/2(月)	法人企業統計	1月建設支出 2月ISM製造業景況感指数			
3/3(火)	10年債入札 2月マネタリーベース 2月消費動向調査			(豪) 準備銀行理事会	
3/4(水)		2月ADP民間雇用調査		(EU) 1月小売売上高	
3/5(木)	30年債入札				
3/6(金)	1月景気動向指数 国庫短期証券(3ヶ月)	1月消費者信用残高 1月貿易収支 2月雇用統計		(中) 2月貿易統計	
3/8(日)		(夏時間開始)			
3/9(月)	10-12月期GDP2次速報値 1月国際収支 2月景気ウォッチャー調査 2月貸出・預金動向 国庫短期証券(6ヶ月)				
3/10(火)	2月マネーストック 5年債入札			(中) 2月CPI	
3/11(水)		2月CPI 2月財政収支			
3/12(木)	1~3月期法人企業景気予測調査 20年債入札			(EU) 1月鉱工業生産 (EU) ECB定例理事会	
3/13(金)	1月第3次産業活動指数 国庫短期証券(3ヶ月)	2月輸入物価指数			
3/16(月)	1月機械受注 流動性供給入札(残存期間5年超15.5年以下)				(中) 2月固定資産投資 (中) 2月鉱工業生産 (中) 2月小売売上高
3/17(火)	1月稼働率 国庫短期証券(1年)				(独) 3月ZEW景気期待指数
3/18(水)	2月貿易統計 国庫短期証券(3ヶ月) 資金循環統計 日銀金融政策決定会合(~19日)				1月企業在庫 2月鉱工業生産 2月小売売上高 FOMC(~18日) 2月住宅着工
3/19(木)	1月全産業活動指数 2月CPI 黒田日銀総裁定例会見				2月景気先行指数 3月フィラデルフィア連銀製造業景況指数
3/20(金)	(春分の日)				2月中古住宅販売件数
3/23(月)					2月シカゴ連銀全米活動指数
3/24(火)	流動性供給入札(残存期間1年超5年以下)				2月新築住宅販売 (EU) 3月ユーロ圏PMI 3月リッチモンド連銀製造業景況指数
3/25(水)	日銀金融政策決定会合議事要旨(1/20~21開催分)				(NZ) 準備銀行理事会 (独) 3月IFO景況指数
3/26(木)	40年債入札				(英) BOE金融政策委員会
3/27(金)	国庫短期証券(3ヶ月)				10-12月期GDP速報値 2月個人所得・消費支出
3/30(月)					2月中古住宅販売成約指数
3/31(火)	2月雇用統計 2月鉱工業生産 2月住宅着工件数 2年債入札				1月S&P/ドジャース住宅価格指数 (中) 3月PMI製造業

◎注意事項
 当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュ マンスリー

(2020年3月号)

2020/02/28

りそなホールディングス 市場企画部



◆ 景気の現状 日本

日本経済は足元弱含み局面。10-12月期の実質GDPは消費増税に加えて暖冬・台風の影響が重なり前期比年率▲6.3%に落ち込んだ。1-3月以降の回復シナリオについても、新型肺炎の下押しリスクが高まっており不透明感が強まっている。

鉱工業生産

1月の前月比	0.8%	
生産予測	2月：5.3%	3月：▲6.9%

小幅上昇も昨年10月以降大きく落ち込んだ水準からの戻りは鈍い。生産予測調査は2月増加も、新型肺炎による下振れに注意が必要

貿易統計

	12月	1月
貿易収支		▲13,132億円
輸出(前年比)	▲6.3%	▲2.6%
輸入(前年比)	▲4.9%	▲3.5%

1月の輸出は前年比▲2.6%と前月から下げ幅を縮小も、引き続き米国向け中心に弱い内容

景気ウォッチャー調査

	12月	1月
現状判断DI	39.7	41.9

現状判断DIは12月から改善も、新型肺炎への警戒もあるなかで先行き判断DIは予想を下回り前月から低下(45.4→41.8)

機械受注

	前月比	金額
12月の民需コア	▲12.5%	8,248億円

前月が大幅増となった反動もあり▲12.5%と市場予想を下回る減少。内閣府による基調判断は「足踏みがみられる」

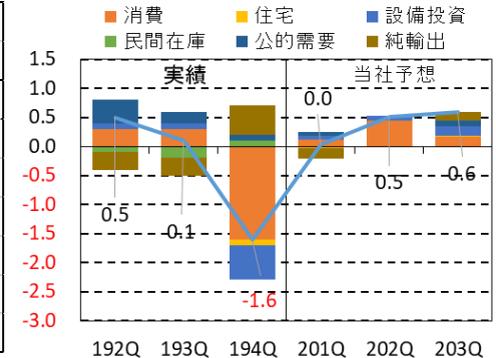
全国消費者物価指数(前年比)	12月	1月
総合	0.8%	0.7%
コア (除く生鮮食品)	0.7%	0.8%
コアコア (除く生鮮食品・エネルギー)	0.9%	0.8%

コア指数は主にエネルギー高を要因に伸びを拡大も、2月以降はガソリン高一服や新型肺炎による旅行需要低下で下振れの可能性。

★ GDP見通し ★

- ・10-12月期は前期比▲1.6%と大きく下振れ。消費増税に暖冬や台風の影響が重なり、大幅なマイナスとなった。これに伴い2019年度の見通しを+0.3%と(前回+0.8%)から下方修正。
- ・足元では新型コロナウイルスによる経済下振れ懸念が熾り、1-3月期もマイナス成長となる可能性。増税で落ち込んだ国内需要の回復の遅れが懸念され2020年度の見通しも+0.4%(前回+0.7%)に修正。

内訳は寄与度 (%,%pt)	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
	実績	予測	予測	予測
実質GDP	0.3	0.3	0.4	0.9
個人消費	0.0	-0.2	-0.0	0.5
住宅投資	-0.1	0.0	-0.0	0.0
設備投資	0.3	0.0	-0.0	0.2
在庫投資	0.0	0.0	0.0	0.0
公的需要	0.2	0.7	0.3	0.1
外需	-0.1	-0.2	0.2	0.1



◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



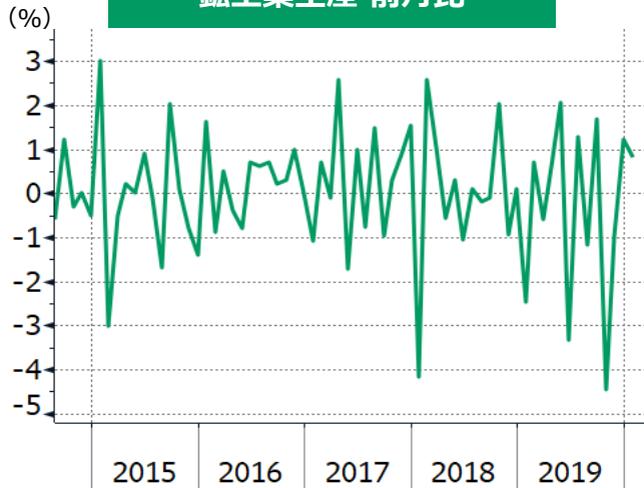
りそな マーケットフラッシュ マンスリー (2020年3月号)

2020/02/28
りそなホールディングス 市場企画部

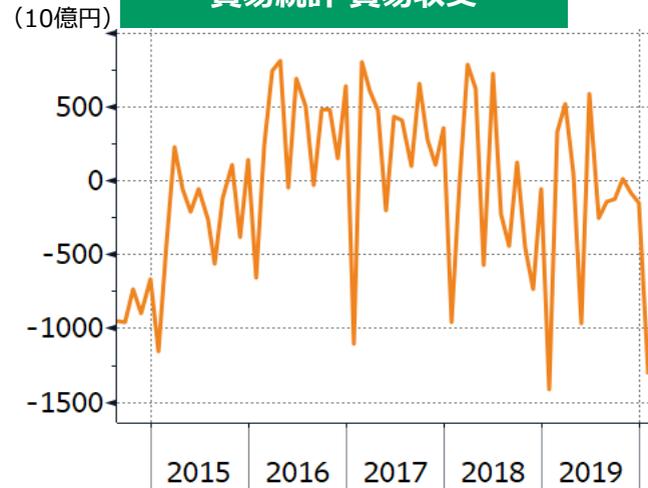
(出所: Bloomberg)

◆ 日本 チャート集

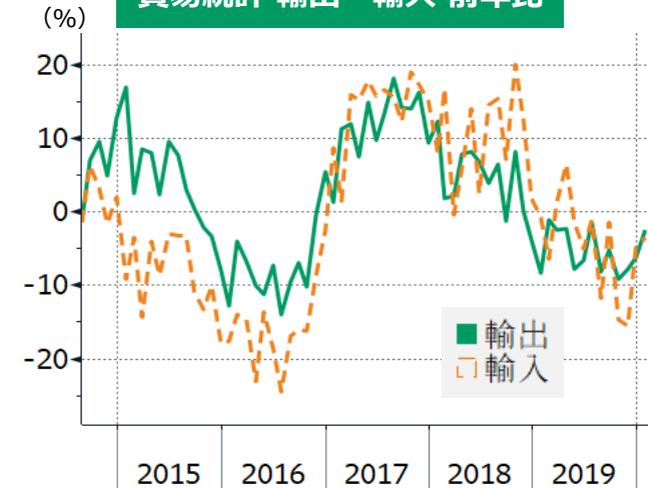
鉱工業生産 前月比



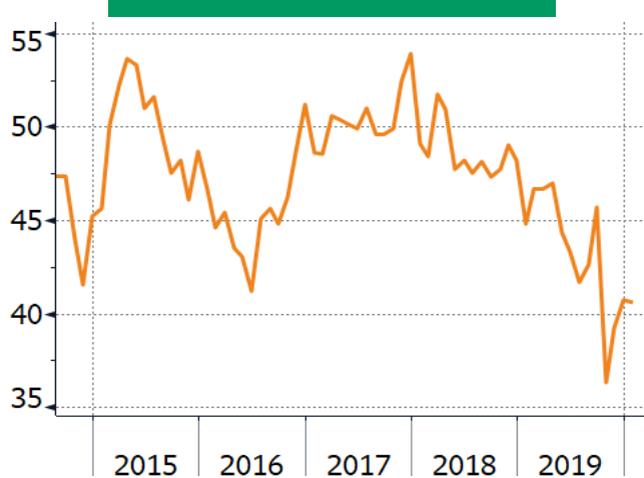
貿易統計 貿易収支



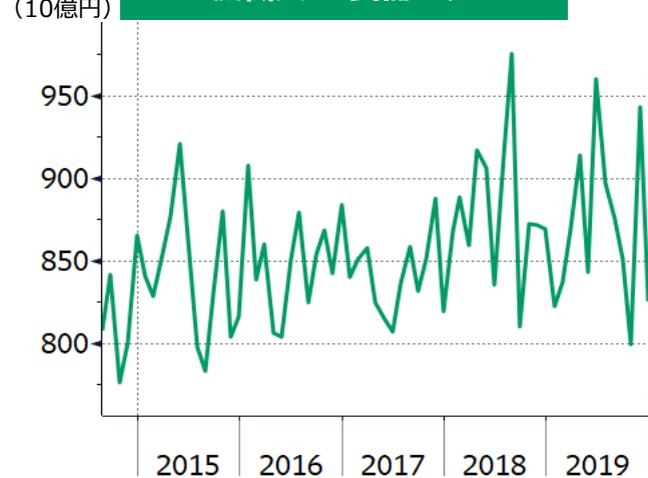
貿易統計 輸出・輸入 前年比



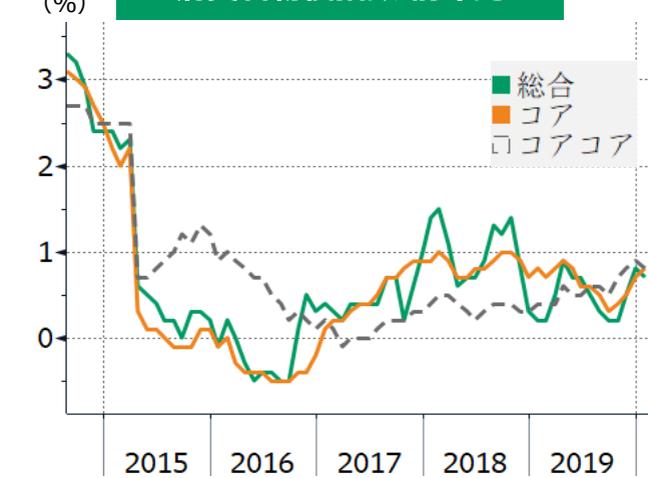
景気ウォッチャー 現状判断DI



機械受注 民需コア



消費者物価指数 前年比



◎注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュ マンスリー

(2020年3月号)

2020/02/28



◆ 景気の現状 米国

米国景気は雇用・消費環境は引き続き底堅く、耐久財受注の改善など設備投資にも持ち直しの兆しがみえる。一方、足元の景況感等には新型肺炎への警戒も出ており先行き注意。

小売売上高	
1月の前月比	0.3%

前月比+0.3%と堅調も暖冬により建設資材が伸びたことも要因とみられ、コア小売売上高は前月比0.0%と軟調。

雇用統計	12月	1月
非農業部門雇用者数 (前月差)	+14.7万人	+22.5万人
失業率	3.5%	3.6%
平均時給 (前年比)	3.0%	3.1%

雇用者数は引き続き非製造業中心に堅調な伸び、建設業も暖冬の影響で上振れ。失業率は低水準が続き、平均時給も緩やかな伸びを維持。

消費者物価指数 (前年比)	12月	1月
総合	2.3%	2.5%
コア (除く食品・エネルギー)	2.3%	2.3%

コア指数は2%台前半の伸びを維持。商品価格の伸びは鈍いもののサービス価格が堅調な伸び。

ISM製造業指数	12月	1月
	47.8	50.9

節目の50を昨年7月以来回復。製造業サイクルの好転とともに回復の兆しが見えるものの、先行きは新型肺炎による下振れリスクが警戒される。

◆ 景気の現状 欧州・中国

欧州経済は実体経済に弱さがみられる一方、2月景況感指数は底入れの兆し。中国は新型肺炎により経済活動が停滞、正常化時期と政府の経済対策が先行きのカギとなる。

ドイツ	前月比	
12月の鉱工業生産	▲ 3.5%	
12月の小売売上高	▲ 2.0%	
	1月	2月
IFO企業景況感指数	96.0	96.1
ZEW景況感指数	▲ 9.5	▲ 15.7

12月の独小売・生産は大きく下振れで景気回復の遅れが示される内容。

ユーロ圏	12月	1月
CPI (前年比)	1.3%	1.4%
	1月	2月
総合PMI	51.3	51.6
製造業PMI	47.9	49.1

製造業PMIには持ち直しの兆し。物価上昇率は1%台の低位推移が続く。

中国	11月	12月
鉱工業生産 (前年比)	6.2%	6.9%
小売売上高 (前年比)	8.0%	8.0%
固定資産投資 (年初来前年比)	5.2%	5.4%
貿易統計 (輸出：前年比)	▲ 1.3%	7.9%
	12月	1月
製造業PMI	50.2	50

春節により主要な1月の指標は公表されず。製造業PMIは1月まで50を維持も、先行きは新型肺炎影響で大きく落ち込むことが予想される。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュ マンスリー (2020年3月号)

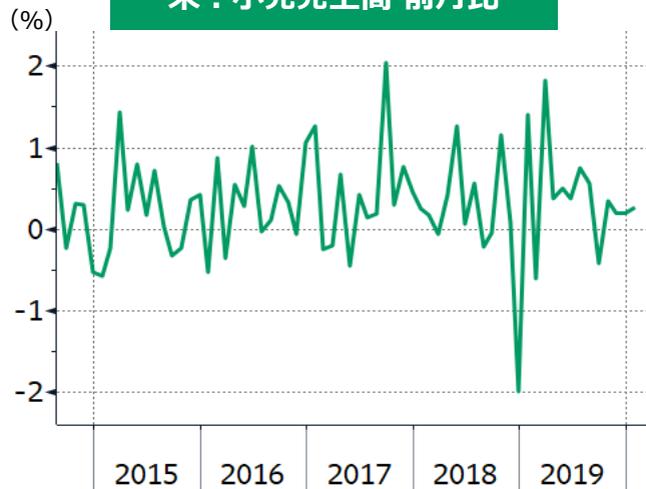
2020/02/28

りそなホールディングス 市場企画部

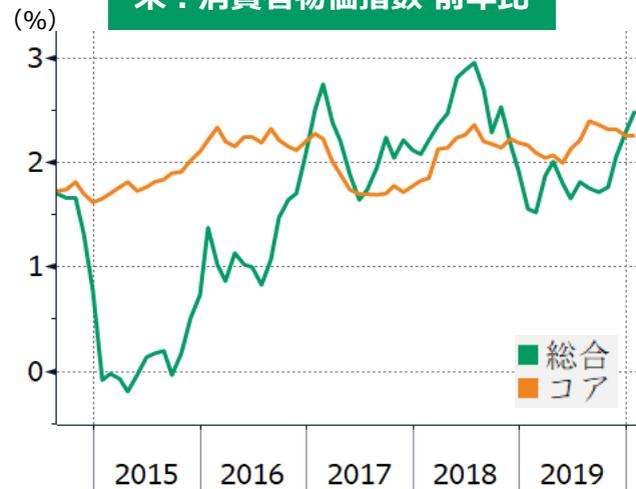
(出所：Bloomberg)

◆ その他 チャート集

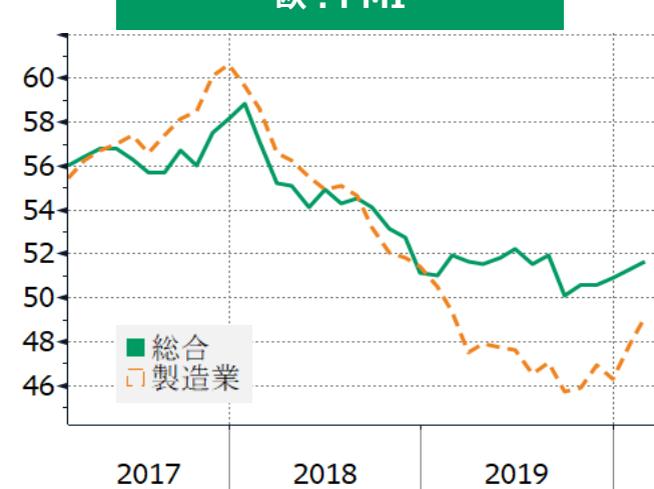
米：小売売上高 前月比



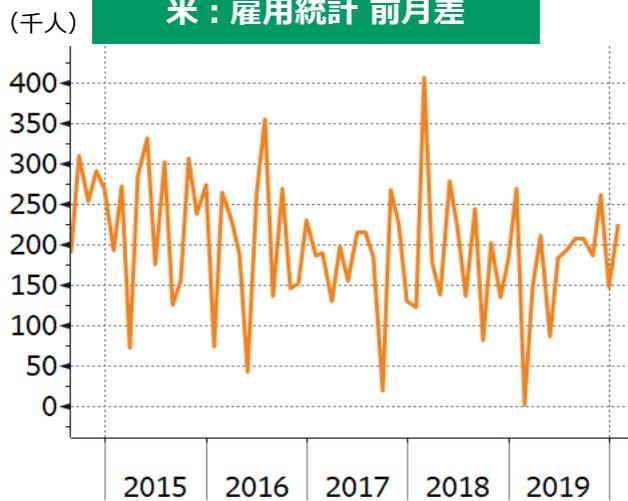
米：消費者物価指数 前年比



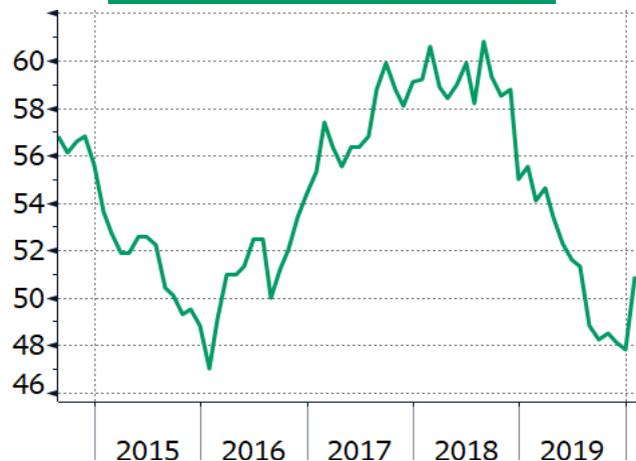
欧：PMI



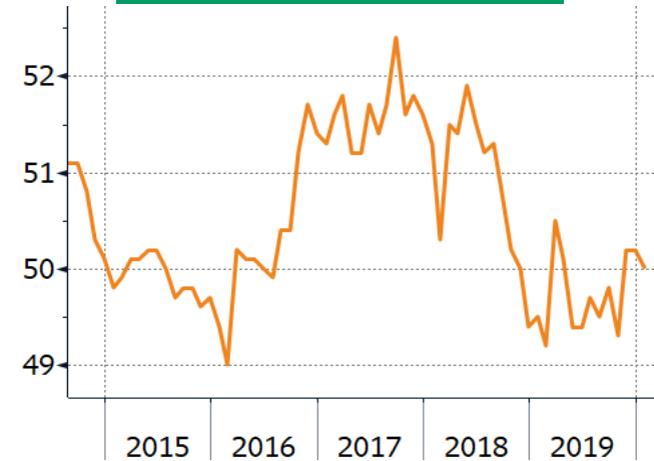
米：雇用統計 前月差



米：ISM製造業指数



中：製造業PMI



◎注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。